

高校生、「教える」を学ぶ

いま No.1592
子どもたちは
先生になりたい ①

「これはちょっと重いから3人、いや4人でしっかり持って」5月24日、翌日に運動会を控えた愛知県豊橋市の市立植田小学校のグラウンド。倉庫から椅子やテントの骨組みを運ぶ5、6年生を、県立豊橋南高校の教育コース2年生14人が手伝った。運動会を通じて子どもへの接し方や教員の働きぶりを学ばうと、40人が近隣三つの小学校に分かれて参加した。

昨年4月にできた教育コースには、小・中・高校の教員など教育関連の仕事に就きたい生徒が集まる。普通科に設けられ、大学進学を想定して一般の教科も学びながら、教育に関わる人になる必要となる知識や心構えを身につけていく。

テントを組み立てていた相場太智さん(16)は、中学時代に熱心に指導してくれた陸上部顧問に憧れたのがきっかけで教員をめざしている。中学2年生の時に教育コースの新設を知り、「絶対に入る」と心に決めた。コースでは、愛知教育大学など地元大学の教員から学んだり、県内外や台湾の学校を訪ねたりする機会がある。同じ夢を持つクラスの仲間からの刺激も大きいという。「同じ教員志望でも小学校と高校では違ってくる



⑤ 植田小学校の運動会当日、後付けを手伝う豊橋南高校教育コースの内山葉月さん(左から3人目)



⑥ 1人問学Ⅱの授業で七並べについて話し合う塔南高校教育みらい科の生徒たち

し、話していて面白い」運動会当日、教育コースのメンバーは本部テントの裏手に集まっていた。ひざを擦りむいたり鼻血を出したりした児童に優しく声を掛けながら対処する教員らの様子を、真剣な表情で見つめていた。

後付けを手伝っていた内山葉月さん(16)は「先生の視点でみると、安全への配慮とか、どの子にどの仕事をまかせるべきか素早く判断するとか、やるべきことが山ほどあるのに気づいた」。

中学時代、親身になって自分の相談に乗ってくれる担任に憧れた。京都市の世界遺産・東寺の五重塔の南に位置することが校名の由来という市立塔南高校。2007年にできた教育みらい科では、これまでに卒業生60人ほどが小・中・高

校などの教員となっている。た。理数系科目が好きで、高校の数学科教員をめざしている。「入学当初は漠然としていた夢が、大学での勉強とか教員採用試験のことも含めて具体的にイメージできるようになってきた」と語る。

6月7日、2年生の授業「人間学Ⅱ」は、40人が10班に分かれてロールプレイング。トランプの七並べを小学生に教える想定だ。それぞれは教える側、聞く側に分けて細かな役割設定がある。教える側の生徒が七並べのルールを説明しようとする、聞く側からは「何が楽しいの?」「トランプって何?」など、予想外の質問が飛んだ。

終了後、どうすればしっかり伝えられたのか議論して班ごとに発表。「実物や写真がないと教えるにくい」「教える側がかなり詳しく理解していないと、うまく伝えられない」といった意見が出た。

吉田和馬先生(33)は「小学生に教えていると予想もしない質問が出たり、話が思いもしない方向に脱線したりすることがよくある。先生方は子どもが何を知らないのか予測しながら授業の計画を立てている」と解説。生徒たちはこの後、具体的な授業を想定した学習指導案の書き方を学び、秋には近隣の小学校を訪ねてグループ単位で授業も行う。福島睦都さん(16)は「自分がよく知っていることで、知らない人に教えるのは本当に難しい。授業本番までにはいろんなことを学んで工夫しないと」。

中学の理科教員をめざす福島さんは、高校では教育についてじっくり学び、大学では好きな理科の勉強に集中するつもりだ。「将来は理科が苦手な子にも面白さを伝えられる先生になりたい」と語る。

質の高い教員の確保狙う

高校の教員養成系コースは、2006年に奈良県立高の平城、高田両校の普通科に設置され関心を集めた。07年には、京都市立塔南高校に専門学科「教育みらい科」ができた。「団塊の世代」のベテラン教員の大量退職に伴う教員不足を見込み、各教委には質の高い教員を自前で確保する狙いがあった。

近年では、千葉県立高で14~18年に千葉女子、安房、我孫子、君津の4校に「教員基礎コース」ができ、愛知県立高で18年に半田東と豊橋南の両校に「教育コース」が設置された。特別な授業や活動が学校生活に占める割合には、高校間で差がある。

この数年で設置校が増えた背景として、佛光大学の原清治副学長(教育社会学)は「文部科学省が普通科から特色ある教育への転換を求めるなか、もともと教員志望者の多い高校がコース化させたという面もあるだろう」と話す。採用試験の倍率が下がり、教員養成系大学を出ても就職をめざさない学生が一定数いる現状で、意欲ある生徒が早くから専門的に学ぶことで優秀な人材が育つとの期待もある。一方で、原副学長は「中学3年時点での決断がその後の進路選択の足かせとならぬよう、カリキュラムの自由度を高める配慮が必要だ」と指摘する。

実際、多感な生徒たちはいろいろな刺激を受けながら将来を模索中だ。同校の内山さんは、祖母が入院した際に優しく世話してくれた看護師の姿を見て憧れを抱いたこともある。「今は先生になりたい。でも、看護師になっても職場で人に教える場面はあるし、どんな仕事に就いても学んだことは決して無駄にならないと思う」。

豊橋南高の教育コース1期生が、大学を卒業して社会に出るのは早くても6年後。「人をつくる人」を育てる思の長い取り組みは始まったばかりだ。(佐藤剛志)

「先生になりたい」。そんな夢を抱き、教員養成系の学科・コースなどで学ぶ高校生たちの姿を、8回にわたって紹介します。

◆感想や、教育に関する情報をお寄せ下さい。edu@asahi.comまたはFAX 03・3542・4856へ。

いま子どもたちは

No.1593

先生になりたい ②

朝のあいさつ 考え学び深める

6月3日、愛知県豊橋市の市立大清水小学校に、県立豊橋南高校教育コースの生徒らの姿があった。翌日から約1週間のあいさつ運動に参加する高1生10

人が小学校周辺を下見し、北沢陽子校長(56)に「高校生のお兄さんお姉さんが来てくれてよかったと思われるよう頑張ってください」と声をかけられた。教育コースでは1、2年生がそれぞれ、近隣の4小学校に分かれてあいさつ運動をした。3年間で様々な学校現場を訪問するが、1年生にとっては初めて小学生と接する機会だ。小6の妹がいる佐々木穂花さん(16)は「低学年の子と触れ合う機会はあまりなかったもので、とても楽しみ」と声を弾ませていた。翌日の朝、小学校の校門前は立っているだけでじんわりと汗がにじむ暑さ。最初は少し緊張気味だった教育コースのメンバーだが、次第に声が自然と出るように。低学年の子と笑顔でハイタッチする余裕も出てきた。約300人の児童が登校を終えると、佐々木さんは「小さな子にあわせて、もっと目線を下げたほうがよさそう」、鈴木花



さん(16)は「おはようだけでなく、もう一言『言加えて話しかけるようにしたい』と翌日に向けた課題を洗い出していた。

登校する大清水小学校の児童にあいさつする豊橋南高校教育コースの佐々木穂花さん(左端)と鈴木花さん(左から3人目) 11日、愛知県豊橋市

前後半に分かれて数日ずつのあいさつ運動が終わったら、各自で作文を書いて振り返りを行う。2年生になると、毎日のあいさつを通じて子どもの異変に気づくことは可能か、といった問題意識を持つ生徒も出てくる。教育コース主任の森典彦教諭(37)は「コースでは様々な年代の人との交流や体験の機会が

あるが、それをきっかけに自分の頭で考え、学んだことを文章や言葉にして発表できるところまで深めてもらう」と語る。1年生は夏休みの「東北スタディーツアー」で、東日本大震災の被災地を訪問する。宮城県石巻市で津波に襲われた旧大川小学校などを訪ねて学校防災について考えたり、県立気仙沼高校の生徒らと交流したりする予定だ。自宅が海に近いという鈴木さんは「災害に備えて学校や教師はどんな準備をするべきか、現場を見て自分なりに考えたい」と意欲的だ。(佐藤剛志)

実習生と語り膨らむ将来像

いま No.1594
子どもたちは

先生になりたい ③

あたる。

生徒らは、実習生が教員をめざしたきっかけや大学で勉強している内容について話を聞いた後、「高校時代は部活と勉強の両立をどうしていたか」「大学ではどのくらい宿題があるか」など質問。中高の教員志望者からは「教育大に進学するのと、一般の大学で学びながら教職課程を履修するのではどちらがいいと思うか」との質問も出た。

ちにする気が出てきた」と話す。教員という目標に向かってどういった段階を踏んでいくのか、年の近い実習生との会話を通じて宮原さんのイメージはより明確になったようだ。

愛知県立豊橋南高校の教育コースでは、自校にきた教育実習生も「生きた教材」として生徒の学びに生かす。

6月10日、同校で教育実習中の大学生7人と1年生との懇談会が開かれた。在籍する大学や教える科目は様々だが、全員が豊橋南高の先輩に

中学校の国語科教員になりたいという宮原実優さん(15)は、「大学生活の様子や受験勉強のやり方について聞く

数学が苦手だったが、質問に

教育実習生の鈴木美和さん(右)の話を聞く宮原実優さん。愛知県豊橋市



科目に。その先生に憧れたことが、後に教員をめざすことにもつながったという。

鈴木さんの話を聞いた小野美歌さん(15)も似た経験を持つ。元々は理科が苦手科目だったが、「憧れの先生の影響で頑張って勉強するようになった」。将来は小学校教員をめざしており、教育大に進んで理科教育を専攻しようと考えているようになった。

教育コースがなかったところに同校で学んだ鈴木さんは「早くから将来の夢が明確な人には、教職に関する知識や経験が高校段階で得られるのはいいこと。後輩たちには頑張してほしい」と語る。

(佐藤剛志)